【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第６部門第２区分
【発行日】平成22年3月18日(2010.3.18)

【公開番号】特開2008-281911(P2008-281911A)
【公開日】平成20年11月20日(2008.11.20)
【年通号数】公開・登録公報2008-046
【出願番号】特願2007-127776(P2007-127776)
【国際特許分類】
Ｇ０３Ｇ　5/05　(2006.01)
Ｇ０３Ｇ　5/06　(2006.01)
Ｇ０３Ｇ　9/08　(2006.01)
【ＦＩ】
Ｇ０３Ｇ　5/05　１０４Ｂ
Ｇ０３Ｇ　5/05　１０１
Ｇ０３Ｇ　5/06　３１２
Ｇ０３Ｇ　5/06　３１４Ａ
Ｇ０３Ｇ　9/08

【手続補正書】
【提出日】平成22年1月29日(2010.1.29)
【手続補正１】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００３１
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００３１】
Ａｒ^{1}～Ａｒ^{3}は、置換基を有してもよい環状基（環の最外郭炭素上のπ電子数が４ｍ＋２で表される：ｍは自然数）を表す。ｍは、１ないし３が好ましく、更に好ましくは、１である。こうした環状基としては、通常、炭素数６以上、１４以下のものを挙げることができ、例えば、フェニレン基、ナフチレン基、アントリレン基、ピレニレン基等がある。好ましくは、環状基としてフェニレン基を用いることである。なお、環状基の環の最外郭炭素上のπ電子数は４ｍ＋２で表されるので、ビフェニレン基、フルオレニレン基等の環の最外郭炭素上のπ電子数が４ｍ＋２で表されないものは、上記環状基には含まれない。また、Ａｒ^{1}～Ａｒ^{3}は、同一であっても異なっていてもよいが、化合物Ａに電荷輸送機能を付与する観点からは、Ａｒ^{1}～Ａｒ^{3}を同一構造とすること、又は、Ａｒ^{1}～Ａｒ^{3}のうちの少なくとも２つは同一構造とすること、が好ましい。

【手続補正２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００３７
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００３７】
式（３）中、Ａｒ^{4}は置換基を有してもよいアリーレン基、Ａｒ^{5}，Ａｒ^{6}は、置換基を有してもよいアリール基を表し、Ｒ^{6}，Ｒ^{7}は、水素原子、置換基を有してもよいアルキル基、又はアリール基を表す。